

白方小学校だより

白 方 の 風

【学校教育目標】 自ら学び考え、心豊かで
健やかに生きる児童の育成

令和 7 年度
No. 1 5
東海村立白方
小学校
2025.7.11
児童数 451 人

いよいよ残り 1 週間で夏休みを迎えます。保護者の皆様のご支援ご協力により 1 学期の間、児童が大きな事故やけがなどがなく、学校生活が送れましたこと、心より深く感謝申し上げます。しかし、夏休み前のこの 1 週間の時期は、長期休みが訪れる高揚感から、事故に遭ったりけがをしてしまったりする場合があります。事故やけがで夏休みが充実したものにならないでしまうと、とても悔しい悲しい思いをすることになります。学校では、歩行中及び自転車乗車中は交差点で必ず一時停止すること、信号機がある場合でも道路を横断する際は左右確認を必ず行うことについて、繰り返し話をして参ります。ご家庭におかれましても、くれぐれも交通事故について気を付けるようお話いただければと存じます。

着衣水泳

～万が一、服を着たまま海や川・沼などに落ちてしまったときの対応方法の学習～

水泳学習の最後は、着衣のまま、水に浮くこと、長く浮いている方法などを学びます。まずは、水の中で仰向けになって手足を広げ、力を抜いて浮く練習をします。その際にできれば、水に浮いたまま素早く靴を脱ぎます。また、水に落ちた際に、近くにペットボトルが捨ててあったり、木の枝が流れていたりしたら体の胸のところでペットボトルや木の枝を抱えているだけで、楽に水に浮くことができます。学校では 2L の空のペットボトルを胸の部分に抱え、着衣のまま浮く練習を行いました。服を着たままだと浮くのは難しいですが、水に浮く物を抱え仰向けになって力を抜いてみると、楽に浮いていることができます。いざという時に、助けを待つまでの間浮いている術を学び、万が一の場合にその術を活かして欲しいと思います。



6月23日沖縄慰霊の日

～沖縄で戦没者追悼式典が開かれました。～

太平洋戦争の末期にアメリカ軍と戦った沖縄戦で亡くなった方の死を悲しみ悼むために、沖縄県では毎年 6 月 23 日を慰霊の日と定め、戦没者追悼式典を開催しております。その今年の式典で読まれた小学 6 年生の平和の詩を紹介します。「艦砲射撃の食べ残し」といった言葉を浴びせられながら、生き延びて命を繋いでくださった祖母への深い感謝の思いが綴られております。多くの方の命を奪い、心と体に大きな傷を負わせる戦争を無くすためにどうしたらいいか、学校では、今後も機会ある度に、みんな考えて参ります。

【沖縄慰霊の日に読まれた平和の詩】

「おばあちゃんの歌」

とみぐすくしりついらは

しろま いぶき

豊見城市立伊良波小学校 6 年 城間一步輝さん

毎年、ぼくと弟は慰霊の日に
おばあちゃんの家に行って
仏壇に手を合わせウートーをする
一年に一度だけ
おばあちゃんが歌う
「空しゅう警報聞こえてきたら
今はぼくたち小さいから
大人の言うことよく聞いて
あわてないで さわがないで 落ち着いて
入って いましよう防空壕（ごう）」
五歳の時に習ったのに
八十年後の今でも覚えている
笑顔で歌っているから
楽しい歌だと思っていた
ぼくは五歳の時に習った歌なんて覚えていない
ビデオの中のぼくはあんなに楽しそうに踊りながら歌
っているのに
一年に一度だけおばあちゃんが歌う
「うんじゅん わんにん 艦砲ぬ くえーぬくさー」
泣きながら歌っているから悲しい歌だと分かっていた
歌った後に
「あの戦の時に死んでおけば良かった」
と言うからぼくも泣きなくなった
沖縄戦の激しい艦砲射撃でケガをして生き残った人の
ことを
「艦砲射撃の食べ残し」
と言うことを知って悲しくなった
おばあちゃんの家族は
戦争が終わっていることも知らず
防空壕に隠れていた
戦車に乗ったアメリカ兵に「デテコイ」と言われたが
戦車でひき殺されると思い出て行かなかった
手榴弾（しゅりゅうだん）を壕の中に投げられ
おばあちゃんは左の太もものに大けがをした
うじがわいて何度も皮がはがれるから
アメリカ軍の病院で
けがをしていない右の太もものの皮をはいで
皮ふ移植をして何とか助かった
でも、大きな傷あとが残った
傷のことを誰にも言えず
先生に叱られても
傷が見える体育着に着替えることが出来ず
学生時代は苦しんでいた
五歳のおばあちゃんが防空壕での歌を歌い
「艦砲射撃の食べ残し」と言われても
生きてくれて本当に良かったと思った
おばあちゃんに
生きていてくれて本当にありがとうと伝えると
両手でぼくのほっぺをさわって
「生き延びたくとう ぬちぬ ちるがたん」
生き延びたから 命がつながったんだね
とおばあちゃんが言った
八十年前の戦争で
おばあちゃんは心と体に大きな傷を負った
その傷は何十年経（た）っても消えない
その命を奪い苦しめる戦争を二度と起こさないように
おばあちゃんから聞いた戦争の話を伝え続けていく
おばあちゃんが繋（つな）いでくれた命を大切に
一生懸命に生きていく

注）「ウートー」：神仏や先祖を拜む際に唱える沖縄地方の言葉